

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市

事業番号 パ	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)		
1 ①	宜野湾市西海岸エリア活性化事業	H24～R13	沖縄西海岸の中心に位置するアクセス性の高い立地を生かして、「琉球海炎祭」「はごろも祭り」「産業祭り」の実行委員会へ負担金及び補助金を支出しを開催運営を支援する。「琉球海炎祭」「はごろも祭り」「産業祭り」の開催を支援し、観光産業の振興を図る。	・琉球海炎祭…来場者数1.5万人（うち県外8千人、海外2千人） ・はごろも祭り…来場者数16.8万人 ・産業祭り…来場者数2.8万人 ・海浜公園周辺宿泊施設宿泊者数についてコロナ禍以前のH30年度実績とほぼ同等水準を目指す。H30年度279,874人→目標：280,000人	今後の展開方針等 ・琉球海炎祭「はごろも祭り」「産業祭り」が継続して開催ができるよう支援を行っていく。 ・宿泊施設の宿泊者数はコロナ禍以前の水準を目指して設定した。	・イベント開催ができる過去3年間の実績をベースに来場者の約5%増を成果目標とする。 ・宿泊施設の宿泊者数はコロナ禍以前の水準を目指して設定した。
1 ②	企画展開催事業	H24～R13	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、市制60周年企画展を中心に企画展を開催する。	企画展1本あたりの平均入館者数：1,470人以上 企画展を開催：2本	【今後のスケジュール】 年間2本以上の企画展を開催する。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を参考に設定した。 ※コロナの影響を考えて令和元年度ベース。
1 ③	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業	H25～R13	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海滨公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信するところにより、キャンプ期間中の観光客を図る。	1万鉢の花の植樹	来場者の満足度80%以上を目標とする。 ・グリーンコミュニティ事業を継続して支援する。	今後も美ら島沖縄、宜野湾を全国へPR 令和3年度プロ野球キャンプは、観客を制限しながらの実施などなったため、アンケート調査の回答数も25件にどまつた。
1 ④	宜野湾海滨公園施設等再編整備事業	H30～R10	海浜という立地を活かした公園としての魅力の向上及び誘客の促進を図るために、文化スポーツ施設を中心とした嘉数高台公園及びその周辺施設の整備を実施する。	再編整備工事(駐車場・照明灯整備)、及び市立グラウンド機能拡張実施設計の実施	【R11成果目標】 施設利用者数 655,000人 【今後のスケジュール】 R4.再編整備工事完了	【R11成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定。 ※コロナの状況を考慮しH29～R1年度の平均で設定
1 ⑤	嘉数高台公園等施設整備事業	H30～R5	戦跡等もあり観光地としての側面もある嘉数高台公園において、公園施設の整備を実施する。		【R6成果目標】 戦跡等を用いた観光地としての利便性の向上が図られたか(80%以上)を含め、観光客や市民等へのアンケートにより、本事業のあり方にについて検証する。 【今後のスケジュール】 R4.再編整備工事(3期)	【R6成果目標設定の考え方】 対象者のうち大半が利便性の向上が図られたとと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方にについてアンケートにより検証する。

R4活動目標(指標)：令和4年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。
R4成果目標(指標)：令和4年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市

事業番号 パ	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)			
1 ⑥	プロ野球キャンプ野球場施設整備事業	H27～R4	野球場施設の機能拡張整備を実施し、継続して宿舎を受け入れる体制を確保する。	市立野球場設備機械機能拡張工事の実施	市立野球場敷水設備機械機能拡張工事の完了	【R5成果目標】 ・プロ野球キャンプ実施件数 1件 ・スポーツ合宿説致件数 3件	【R5成果目標】 過去の実績を参考に設定した。
1 ⑦	ぎのわんめら海クリーン活動支援事業	R3～R13	・市観光振興協会を中心としたダイビング、マリン事業者等の組織体である「ぎのわんマリン協会」へ補助金を出し、活動を支援する。 ・サンゴの植樹、清掃活動等を当して確立する。 ・体験ダイビング：200人			・サンゴの植樹、清掃活動等を継続して実施する。 ・本市の美しい海をPRし、観光コンテンツとして確立する。 ・体験ダイビングにおける観光客の誘客を図る。 ・マリン協会として自主財源を獲得できる取組みを実施する。	・令和3年度にマリン協会を設立。マリン協会のHPを立ち上げ、サンゴの植樹や海中清掃活動等を実施。 ・令和4年度はこのようなSDGs活動に賛同できる企業を募り、自主財源の獲得に努める。
2 ①	スクールソーシャルワーカー活用事業	H24～R13	スクールソーシャルワーカー等を配置し、学校及び関係機関と連携しながら不登校や問題行動の未然防止、早期対応、改善に取り組む。	小学校9校・中学校4校に各1名の計13名の学校配置にセンター内にコードインスター4名及びアドバイザー1名を配置、学校と連携し寄り添い支援や関係機関につなぐ支援活動を実施		【今後のスケジュール】 不登校支援の方針として、必ずしも学校復帰だけが前提となるのではなく、これまでの学校への復帰に比重を置いた目標では、現状にそぐわなくなっているため。	「不登校児童生徒への支援の在り方にについて」(通印)令和元年10月25日文科初第698号
2 ②	適応指導教室事業	H24～R13	不登校児童生徒の適応指導に関する調査研究、相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊自然体験学習及び他校との交流活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。	適応指導教室支障児童生徒数・8名 10%		【今後のスケジュール】 他の適応指導教室との宿泊学習での交流や講師を招いての体験交流会等を行ない、集団生活に適応するための意識向上やコミュニケーション能力向上を図るための支援を行う。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を参考に設定した。

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

事業番号 パ	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)		
2 ③	児童生徒等相談事業	H24～R13	臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、相談等支援をとおして、不登校等の課題の改善に取り組む。	臨床心理士2名と青少年教育相談指導員3名を配置	【今後のスケジュール】 日頃、来所相談等を通して関わるのあらゆる児童、生徒の保護者や、活用する学校側から、相談事業の有効性を聞き取ることによって検証し、保護者・学級とも多數が満足していることとされる数値を目標とする。 （指標）臨床心理士・青少年教育相談指導員は希望に沿った支援を行えたか？→とても満足・まあまあ満足合わせて80%以上	「不登校児童生徒への支援の在り方にについて」(通知)令和元年10月25日文科初第698号
2 ④	非行防止等巡回活動事業	H24～R13	青少年の健全育成に寄与するため、街頭指導員を配置して夜間街頭指導等を実施し、関係機関や地域と連携し青少年の問題行動の未然防止、早期発見に取り組む。	4中校区から各4名の街頭指導員を計16名委嘱し、4グループを編成 4名1グループが週3回(平日21時～23時) (金・土曜日2時半～23時半)の公園を中心巡回し夜間街頭指導等を実施	【今後のスケジュール】 ・年間の街頭指導実績回数が、前年度実績の12%減(過去の実績を参考)	類似の教員を含めたボランティアによる夜間街頭指導事業が、昨今の働き方改革により縮小する傾向があるため、より一層、本事業への重要度が増している。
2 ⑤	学習支援員活用事業	H24～R13	学習に遅れをとっている児童が自ら学ぶ意欲を高め、基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置し、個々の学力に応じた学習指導を行うことで、基礎的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。	沖縄県学力到達度調査における、県と本市との平均正答率の差 ・小学校 算数：+2.0ポイント以上 ・中学校 数学：-6ポイント以上	【今後のスケジュール】 今後も、小、中学校において学力の定着に遅れがちな児童生徒に対して、個別に応じた学習指導を行うことで、基礎的な知識技能の習得を図り、学習意欲を高め、学力の向上を図る。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
2 ⑥	派遣費補助金交付事業	H24～R13	児童生徒の文化及びスポーツ活動を奨励し、県外の児童生徒との競争や交流の機会を増やすため、学校教育の一環としての県外派遣を支援する。	県外へ派遣される団体への支援を実施 支援団体数：14団体 (スポーツ活動団体：12団体、文化活動団体：2団体)	【今後のスケジュール】 R1・R2のアンケート結果は、「現野が広がったと思う」が80%を超えていたため、大変多くの児童生徒へのアンケート結果「子ども現野が広がったと思う」が80%以上	【R4成果目標の考え方】 現野が広がったと感じる児童生徒の保護者へのアンケート結果「現野が広がった」と思う80%は、大多数の児童生徒の現野が広がったと考えられた。今後はこの数値を維持するため、継続して支援を実施する。

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

宜野湾市		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	R4成果目標(指標)	備考
パ	細				R4事業内容	R4活動目標(指標)			
2	⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業	H25～R13	宜野湾市に在住する児童生徒でスポート少年団に加盟登録している団体又は個人が、沖縄県を代表して、県外又は県内離島の大会に派遣される場合に要する経費に対し、補助金を交付する。 【補助対象経費】 ※市交付要綱に基づき交付する航空運賃・補助額の1／2相当額	対象児童生徒の保護者へのアンケート結果「子どもたちの視野が広がったと思う」:80%以上	【今後のスケジュール】 R2のアンケート結果は、「視野が広がったと思う」が80%を超えて、県外へあらわれた大多数の児童生徒の視野が広がったと考へられる値として設定した。 今後はこの数値を維持するため、継続して支援を実施する。	今後の展開方針等	補足説明等	
2	⑧	特別支援教育支援員派遣事業	H28～R13	直野湾市立の幼稚園における特別な配慮を要する幼児・児童・生徒の支援者として特別支援教育支援員を派遣し、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	特別支援教育支援員派遣員(幼稚園:10人、小学校46人、中学校16人配置)	成果目標としては、対象児童等を普段から見守る立場である保護者と支援員の支援者として特別支援員配置の有効性を引き立て、検証できるものとし、学校・保護者とも多數が満足していると考えられる数値として「95%以上」と設定した。	今後も直野湾市立の幼稚园・中学校における特別な配慮をする幼児・児童・生徒の支援者として特別支援教育支援員配置の有効性を引き立て、検証できるものとし、学校・保護者とも多數が満足していると考えられる数値として「95%以上」と設定した。	過去の実績を勘案して設定した。	
3		歴史公文書等整理・活用事業	H24～R13	市立博物館所蔵の写真資料を整理し、今後の市民・利用者の資料要求に迅速に対応することを目的に写真資料や公文書等を順次公開する。	デジタル化済み写真データの情報入力。情報入力が済んだ写真データの公開。公開基準に基づいた歴史公文書の公開。	【今後のスケジュール】 ・アンケートを実施し、市の歴史や文化への理解が深まった方の割合が80%以上とする。 【R4成果目標設定の考え方】 対象者のうち大半が、市の歴史や文化への理解が深まつたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方について、アンケートにより検証する。	【今後のスケジュール】 写真整理の整理を行い、システム上に写真データを公開する。また、歴史公文書についても並行して整理を行い、順次公開をすすめていく。		

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

事業番号	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)		
4 ①	平和市民啓発事業	H24～R13	【平和大使育成事業】 戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するため、市立中学生8名と青年層1名を平和大使に認定し、県内研修を行う。	【平和大使育成事業】 県内研修及び県外研修に派遣する人数・市内中学生・8名、市内青年層・1名・フォローアップ研修・1回	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを調査し (1)「平和に対する理解が深まった。」 (2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合・80%以上	市立中学生8名及び市内青年層1名に平和大使として市が実施する平和に関する事業に参戦の悲惨さや平和の大切さ、市民に平和の大切さを啓発していく。 フォローアップ研修も行っていく。
4 ②	英語教育推進事業	R4～R13	【平和祈念事業】 また、沖縄戦から76年余が経過する中で、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを市民に啓発するため、平和大使を活用したイベントを実施する。	【平和祈念事業】 平和大使を活用した啓発イベント実施回・5回	小学校1年生から英語教育を継続して実施し、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語によるコミュニケーションを図るうとする態度の育成を目指す。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、英語によるコミュニケーション能力の基礎の向上を図る。	①「英語が好き」な児童(小学校5・6年生)の割合85%(形成テストより) 生徒(中学生3年生)の割合60% (全国版生徒質問紙より) ②児童英検の正答率(小学校5年生)90点以上 ③児童英検の正答率(小学校6年生)85点以上
4 ③	学校ICT活用指導支援事業	H24～R13	ICTを活用するなどの教育効果を図るために、学習に対する意欲を高め、学力もと、児童生徒の国際化時代に必要な外國人ととの英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を育むことと共に、学習に対する意欲を高め学力の向上を図る。	ICT支授員2名を配置し、児童生徒がICTを活用することで興味、関心を高めるなどの教育効果を図ることができる授業の支援、教職員向の校内研修(ICT活用研修)の実施、ICT機器の障害対応を行う。	①教員にアンケート調査を実施し、授業にICTを活用して指導できる割合：80%以上 ICT支授員2名配置 情報夏期講習会13回 ②児童生徒にアンケート調査を実施し、ICT機器活用により、授業が分かりやすかつたと答えた割合：80%以上	【R4成果目標設定の考え方】 対象者のうち、大半が理解・習熟しているとされる値として設定した。また、本事業のあり方にについて、アンケートにより検証する。

R4活動目標(指標)：令和4年度における当該事業の主な取組や事業をあらわしたもの。
R4成果目標(指標)：令和4年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

事業番号 パ	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)		
4 ④	ICT機器活用推進事業	H31～R4	児童生徒の情報活用能力の育成環境を整備するため、小中学校に電子黒板等を整備する。	①教員にアンケート調査を実施し、授業に電子黒板を活用して指導できる割合:80%以上 ②児童生徒にアンケート調査を実施し、電子黒板の活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	【今後のスケジュール】 教員を対象にした研修会を実施し、電子黒板を活用した情報教育授業を推進する。	【R4成果目標設定の考え方】 ①事業の成果目標として、教員にアンケート調査を実施し、授業にICT機器とデジタル教科書を活用して指導できる率を80%以上とした。80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。 ②事業の成果目標として、児童にアンケート調査を実施し、ICT機器とデジタル教科書の活用により、授業が分かりやすかったと答えた児童の割合を80%以上とした。80%以上の設定については、対象者のうち概ね肯定的であるといえる数値として設定した。
4 ⑤	中学生語学研修派遣事業	H31～R13	市内在住中学生10名を国内語学学習研修へ派遣	語学施設等でさまざまなシチュエーションを想定した語学研修の機会をえ、異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上をめざし、国際性と国際的視野の育成に資する。また、国の外交の中核となる官公庁施設を見学することで、国際外交の重要性に対する見聞を深める。	【今後のスケジュール】 今後は海外での留学の機会を与え、生活体験を通じた異文化理解と英語による実践的コミュニケーション能力の向上を目指す。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
5 ①	市民防災事業	H27～R13	本事業は宜野湾市地域防災計画に基づき、災害に強いまちづくりの推進により、災害時の食料・飲料水を確保し、適切な被災者支援を行う。	①保存食及び保存水の備蓄 ・R4年度備蓄量購入5,500食 ・R4年度保存水購入(500ml)1,104本	①保存食及び保存水の備蓄 ・R4年度備蓄率100% ・R4年度保存水備蓄率11% ②宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートの結果「備蓄の重要性を感じた。」:「80%以上」と設定。	【R4成果目標設定の考え方】 引き続き、宜野湾市地域防災計画に基づき設定した必要な保存食・保存水を備蓄し災害に強いまちづくりを推進する。また、これまでに整備した資機材を活用した防災訓練を年2回以上は実施することを目標とする。 【R4成果目標設定の考え方】 宜野湾市防災計画に基づき設定した。

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

事業番号 パ	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	R4成果目標(指標)	備考	
			R4事業内容	R4活動目標(指標)				
5 ②	沖縄観光防災力強化支援事業	R4～R13	沖縄県は、大規模災害時には島じょ県であるため、観光客が観光地に足止めされ、観光避難民にならざるを得ない地域であります。そのため、平時から災害に対する必要がある。沖縄の観光振興の視点からする備え観光避難民に対する防災対応を包括的に支援することにより、安心・安全な災害に強いまちづくりを推進する。	・食糧・主食(2,450食) ・食糧・副食(2,450食) ・保存水(2,545L) ・絶口飲料(1,000袋) ・防災備蓄資機材倉庫(1基) ・仮設照明機(56基)	観光避難民向けの備蓄 ・R4年度備蓄食糧 備蓄率100% ・R4年度保存水 備蓄率100%	引き続き、宜野湾市地域防災計画に基づき設定した必要な保存食「保存水」を備蓄し災害に強いまちづくりを推進する。また、これまでに整備した資機材を活用した防災訓練を年2回以上は実施することを目標とする。 【R4成果目標設定の考え方】 宜野湾市防災計画に基づき設定した。	今後の展開方針等	補足説明等
6 ①	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)	H24～R13	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。また、市民によって構成される「NBミーティング」や若手地権者等によって構成される「手の会」の活動を支援し、合意形成についての取り組みを行う。	市民向けの意向調成イベント ①来場者数:230人 ②参加者数:80人	【今後のスケジュール】 今後も普天間飛行場の跡地利用計画の意向醸成・合意形成の推進を図るために、意向の会及びNBミーティングの活動を支援する。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。	【R4成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。	
6 ②	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(同事業)	H24～R13	普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けて、跡地利用の骨格及び分野別計画の検討及び市民・県民・地権者との合意形成、情報発信等を実施する。	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」 作成	（後年度の成果目標） 跡地利用計画(要素)策定後、当該跡地利用計画に対する市民・県民・地権者等の「肯定的な評価を得られた」と考えられる値として設定した。	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」 の作成に向けた検討調査を行い調査内容報告書の作成	【R4成果目標設定の考え方】 対象者のうち、大多數から肯定的な評価を得られたとを考えられる値として設定した。	
7	地域キャラリア教育支援事業	H30～R13	地域の企業、学校、保護者等が連携した連携協議会を開催、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、市内外中学校で職業体験プログラムを実施すること で、児童生徒の就業意識の向上を図る。	・宜野湾市みらいづくり連携協議会の開催(2回) ・市内外中学校全校での職業体験プログラムの実施 ・中学生の職場体験事業所の開拓 ・高校との連携講演会の拡大	【今後のスケジュール】 就業意識の肯定的变化(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方にについて検証を行う。	【R2成果目標設定の考え方】 大多数の児童生徒の意識に肯定的な変化が生じたと考えられる値として設定した。また、本事業のあり方にについて、アンケートにより検証する。	【R2成果目標設定の考え方】 地域ぐるみでの子どもたちのキャラリア教育の取り組みが充実したものになるよう、連携協議会の活性化を図っていく。	

令和4年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

事業番号	事業名	計画期間	事業概要		R4成果目標(指標)	備考
			R4事業内容	R4活動目標(指標)		
8	市民会館機能強化事業	H30～R6	建設から38年以上が経過し施設の老朽化が進んでいる現在の設備等を改修し、市民がより利用しやすい施設として機能向上を図り、市民が質の高い文化芸術公演に触れる機会や文化芸術活動を行う場の確保を図るために、宜野湾市民会館の整備を実施する。	①空調設備改修【設計】 ②中央監視盤改修【設計】 ③防災盤改修【設計】	【今後のスケジュール】 R5 ①空調設備改修【工事】 ②中央監視盤改修【工事】 ③防災盤改修【工事】	※開館期間もコロナの影響で利用が減少した。 R2利用者数318人、(3ヶ月開館)3件 R3利用者数4108人、(7ヶ月開館)20件 利用者数の目標はH30で設定。 （公演回数） 施設の強化による利便性の向上により、イベント回数の増加が見込まれるため、後年度に公演回数等の数値を成果目標として設定する。 R4年度目標公演数：70回 H30の利用実績で設定。 R2(3件) R3(20件)
9	宜野湾市基地返還跡地転用推進基金事業	H24～R13	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、基金を造成し、土地の先行取得に取り組む。	●普天間飛行場 特定事業の用に供する土地取得目標 15,000m ² (達成率約4%) ※達成率：先行取得目標面積(145,400m ²)に対する累積取得面積の割合 ・基金の積立	【今後のスケジュール】 R4成果目標設定の考え方】 返後の跡地利用の推進を図るべく、令和3年までの間で、普天間飛行場及びインダストリアルコリドー地区における必要な土地について100%の取得を行ざし、計画的かつ継続的に先行取得を行っていく。 ●インダストリアルコリドー地区 R4成果目標はなし R5成果目標として、特定事業の用に供する土地取得目標5,000m ² 。 ※先行取得目標面積 25,000m ²	

R4活動目標(指標)：令和4年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたもの。
R4成果目標(指標)：令和4年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。